

## 第4回 生駒市史編さん委員会会議記録（要旨）

- 1 日時 令和5年3月28日（火）10：00～12：00
- 2 場所 生駒市コミュニティセンター201・202会議室
- 3 出欠（敬称略）  
（参加者）谷山正道、吉川真司、天野忠幸、高木博志、神田雅章、山本昇、原井葉子、八重史子  
（事務局）西野図書館長、錦図書館課課長、清水生涯学習課長、伊田市史編さん係員、  
池田市史編さん係員、西野市史編さん係員

4 会議の公開・非公開 公開

5 傍聴者 なし

### 6 議事内容

- ◎執筆員更新報告（前回以降のみ） 中世史1名変更、近現代史（現代史地理分野）1名追加、文化遺産分科会建築分野1名追加、自然分野は奈良県の研究会の代表として1名のみ記載
- ・中世史（吉井敏幸氏→服部光真氏：元興寺文化財研究所研究員、中世史の神社・寺院史）
  - ・近現代史（現代史地理分野）1名追加（香川雄一氏：滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科教授 生活環境・まちづくり・環境保全）
  - ・文化遺産分科会・自然科学（前川歩氏：畿央大学人間環境デザイン学科講師）

### (1) 令和4年度各分科会活動報告

#### ○事務局から

- ・各会議や打ち合わせ（調査先・調査資料、本編の章立てなどについて協議）
- ・通年：撮影・翻刻、古地図から字名転写及び新聞資料検索（ボランティアの協力有）
- ・イベント：地域学習イベントいこま、講演会開催
- ・講演会時アンケート結果（主な意見）

市史について多かった意見：新版の価格設定について1,000円～2,000円、写真・地図等を入れて分かりやすく、簡素化した文章に、デジタル化の検討、市民が誇れる内容にして欲しい等

#### ○古代史分科会（吉川）

- ・古代史は11世紀までを扱う。
- ・檀考研内の分散した史料の調査・把握と遺物の大部分が奈文研・生駒市にあるため内容の把握
- ・窯跡踏査、生駒小倉庫・ふるさとミュージアムで現物確認。
- ・来年度は檀考研の資料調査を一層進める。また、古道踏査実施予定。

#### ○中世史分科会（天野）

- ・刊本調査がほぼ完了。令和5年度は報告書・論文に掲載の生駒市に関する史料調査。元興寺文化財研究所等にある生駒市域の史料検索を服部氏に依頼する予定。天野氏・新谷氏で北田原城の良好な発掘成果などを市史に反映したい。

#### ○近世史分科会（谷山）

- ・宝山寺文書調査、史料集刊行に向けた作業、中・南地区の史料の選別はほぼ終了。令和5年度は北地区の選別を進める。寺社の調査も継続実施する。

### ○近現代史分科会（高木）

- ・ R5年度は地理分野とのすり合わせが必要。近世・近代の調整が必要。
- ・ 明治維新～1970年6月、新聞資料検索・索引（生駒市内の関連記事の抽出は県下では初）、各方面の調査の実施（生駒市行政史料文書、岸家文書や宝山寺、北倭土地改良区所蔵史料）
- ・ 調査成果を図書館に所蔵し、市史だけでなく以降の研究に活用できる。

### ○文化遺産・自然分科会（神田）

- ・ 建造物：R3で悉皆調査済。R5年度は近世・近代の優秀物件の詳細調査。美術工芸品：2件調査済。R5は宝山寺の世俗画調査を進める。石造物：悉皆調査済のため報告書の再確認と未掲載のものを調査。民俗：地元の聞き取りとアンケート調査。文学は各分野で史料収集中。自然：主に北の調査。イベントも兼ねて各地域の情報収集などを実施した。
- ・ 文学担当で生駒山などの和歌について執筆。古代史では資料収集は行わない方向で進める。

## （2）史料集等の構成について

### ○資料3のとおり

史料集第2集 近世（R6）

3集 近代（R7 3月）

5集 鉄道・道路

9集 新聞資料

以後状況をみて、増号の可能性あり

### ○本編について

- ・ 当初予定刊行完了の時期を令和9年度から令和10年度に移行し、2年度で3巻及び4巻(上下)3冊を時期をずらして刊行し、校正ミス等を防ぐ。

## （3）発刊スケジュールについて

- ・ スケジュールが特にタイト。古代、中世史料集7集及び本編1巻の円滑な作成と編集にご協力をいただきたい。（事務局）

## （4）イベント事業について

- ・ 5年度は地域学習イベント中地区編を開催予定。概論講座は5/28、特論講座は7/30、会場はコミュニティセンターを予定。フィールドワークは生駒駅前、宝山寺周辺を予定。講演会は中世史分科会が担当。北田原城の成果を盛り込む。

## （5）その他

○史料集第1集の価格は1,500円で頒布予定。（アンケートの希望額内）

○アンケートの希望に沿うには本編と大人向けの概要版、子ども向け(小学校高学年から中学生)など対象を区別したものが必要で、逐次発刊も視野に入れる。

### 概要版参考例

- ・ なら文化交流機構(『月刊大和路ならら』発刊元)刊の『思いつくまま、歴史の旅ー王寺まち歩き100話ー』
- ・ 向日市『向日市の歴史』、大東市(漫画版)

○収集した史料の活用

- ・市史刊行後も史料の収集・保存を継続できるよう検討課題とする。
- ・近代以後の行政文書は他市に比べて残りが良く、貴重であるので、適正に保存していくことが課題である。

○アーカイブ

- ・所蔵者の了解を得ることが大切である。
- ・市史資料を保存・公開する枚方市や茨木市の先進的事例を参考にする。
- ・大型の絵図、葉書など、理解しやすいものを走り出しに載せてPRにつなげる。

○補充調査

- ・大規模な史料所蔵者へのアプローチを継続して行う。
- ・菜畑の陣屋役人と大庄屋の家、山崎の庄屋、鷹山家文書所蔵者の調査が残る。

以上